



育連だより



<https://web-k.jp/ikuren/new/>

全国子ども会育成中央会議・研究大会3年ぶりに開催

川崎区子ども会連合会 根本 一 雄

新型コロナウイルス感染拡大の影響下、3年ぶりに第55回全国子ども会育成中央会議・研究大会が長野県長野市の芸術館にて、令和4年10月29日(土)から31日(月)まで三日間開催されました。

北は北海道から南は沖縄県まで参加者450名、川崎市からは14名参加しました。

一日目の開会式は、全国子ども会連合会美田耕一郎会長の主催者挨拶から始まり、来賓の出席は永岡文部科学大臣(代理)、長野県知事、長野県議会議長、荻原長野市長など多数の方が参列され、祝辞をいただき盛大に開催されました。

表彰式は個人表彰、団体表彰、奨励賞がありました。個人は20年以上子ども会活動に従事した方団体は10年以上活動を続ける市区町村連合組織、奨励賞は都道府県・指定都市子ども会連合会組織で10年ごとの節目に当たる団体に贈呈されます。

個人表彰は62名、川崎市からは多摩区大津区子連長と私、川崎区根本が受賞しました。

北海道子ども会から順に名前が呼ばれ、私も名前を呼ばれて壇上に上がりました。緊張で手足が震えましたが、会場から子ども会関係者の皆様よ

り温かい祝福を受け大変感激し、会場の皆様感謝いたしました。

川崎市は前年度70周年を迎えたことで、全子連より奨励賞をいただくこととなり、小笠原連盟長が代表で受賞しました。無事表彰式を終え、夜は会場をホテル国際21に移し、受賞者を囲む会及び情報交換会が開催され、受賞者や全国の子ども会関係者と楽しく懇談しながら情報交換を行い、これからも子ども会発展の為に尽力していくことを誓い合いました。

二日目の研修会は、参加者全員が共通のテーマで3グループに分かれて協議する分散会形式で行われました。

三日目は県内視察研修で、諏訪大社(上社本宮、下社春宮)ご参拝、北澤美術館(フランス・アールヌーヴォー期のガラス工芸と現代日本画が展示されている)の見学を行いました。

大会は順調にプログラムを終了し、閉会式を迎え、全国の子ども会が増々活発に活動することを誓い散会しました。



諏訪大社散策



海洋少年団「カッターボート」訓練について

川崎海洋少年団 井本 勝己

海洋少年団は、海を訓練の場として、子どものころから海に親しみ、団体生活を通して社会生活に必要な道徳心を養い、心身ともに健康でたくましい人間の育成をめざしています。海の活動の一つのカッターボート訓練を紹介します。

カッターボートは、普段はカッターと呼んでおり、大型船の甲板上に搭載されている手漕ぎの救助船がカッターです。現在は手漕ぎの救助船が少なくなっ



ています。海洋少年団が使うカッターは、長さ6m型で漕ぎ手が6人、舵手と指揮官が各1人で、その他、見張りや補助要員が乗ります。中学年は漕ぎ手やさらに舵手の練習を行い、年少団員は補助要員となります。海上の運航ルールを覚える第一歩でもあり、カッターを岸壁に係留するためのロープ練習、また陸上や船同士の離れた所との通信手段として手旗信号の練習も行っています。

このように海上ではカッターに乗船して、海に親しみながら活動をしています。多摩川河口では飛行場を離着陸する飛行機をすぐ真下から見上げることができたことや、相模湾では横須賀から江の島まで漕いだことなど船ならではの楽しみや魅

力があります。

遠漕では、全員で一致団結となって目的地を目指しますが、まさに体力勝負であって、一人一人が力を抜くことなく、全員の呼吸やオールの入水から離水が合わないと思うように進みません。そして、荒波や強風を受けるなど状況に合わせた操舵を行い、自然の厳しさも知るようになります。

しかしながら、青空の下や広大な海での船上は日常と違って爽快を感じ、目的地に着いたときの達成感など漕ぎ手全員の協調性や一体感も生まれます。



そして、海洋少年団では、県単位での大会や関東地区など地区大会、そして全国大会が開催されています。大会では、カッターレース、手旗送受信競技、ロープ結索競技、水泳競技などのほか、友情の集いとして団員同志の交流会も行われています。

その友情の集いでは、他の団の団員とすぐに打ち解けており、理由としては、カッターボート訓練を通して普段同じ訓練内容をしており、同じ辛さや楽しさを知っているからこそ同じ仲間として理解しあえるのだと思います。

3年ぶりの羽根つき大会

宮前区子ども会連合会 安藤 寿 昭



1月22日、3年ぶりの羽根つき大会を開催致しました。今年度は宮前区子連40周年と言う事もあり、何とか行いたい気持ちで挑んだ大会でもありました。参加人数は決して多くはありませんでしたが、活気ある大会となりました。

宮前区は男子の部があり、女子より参加人数が多く、大変盛り上がっています。野球部を引退した6年生だったり、オフシーズンだったりと言う事もあり「野球では負けたけど、羽根つきでは負けないぞ！」と言う感じで熱くなってきて、見ていて楽しいです。

参加した子ども会からは、お父さんの部を作って欲しいとの声も挙がる次第です。練習に付き合っている父親達も以外とやりたいみたいです。

今後、市大会でも男子やお父さんの部が出来たら羽根つきがもっと楽しくなるのではと思うところです。年々子ども会に参加する子が減少していく中、みんなが参加出来るスタイルにして行く事も大事ではないかというところでもあります。

何事もなく無事に楽しく行えた事も、参加してくれた選手や運営協力してくれた役員の方々の皆様のおかげと思い感謝しています。

中高生リーダー研修委員会

4団体の交流イベント

12月18日（日）9:45～15:00 日本科学未来館にて開催
21名参加・グループに分かれて館内見学し交流を深めました。



いつもは交流することのない子ども会、GSと仲良く回ることができて、有意義なイベントでした。（BS 中1）



以前にも来たことあるが、高校生になって別の見方で楽しめました。GS、BSと仲良くなれて情報交換もできていました。（子ども会 高2）



最新の技術などを見学できる機会があって良かったし、未来の地球のことを考えて生活する大切さがよくわかった。知らない人とも仲良くブースを回れ、お互いを知ることができた。（BS 中2）



同じ趣味の子がいたりして、子ども会、BSの子たちと楽しく交流出来ました。私にとっては最後の研修となりますがとても楽しい経験でした。（GS 高3）



私の団からは1人の参加で心配でしたが、チームみんなと楽しく接することが楽しかったです。（GS 中2）

実行委員&アドバイザー



実行委員の感想

- ・初めて実行委員として参加したが、他の団体の活動を知ることができて楽しかった。
- ・今までと違う場所で、新しい方法での交流ができた。来年も実行委員やります。
- ・委員会の回数が少なく、当日の企画が詰められないところがあったのでこの反省を次に生かしたいです。

ボルチモア川崎バーチャル富士登山

日本ボーイスカウト川崎地区協議会 国際委員長 西角 恵 輔

ボルチモア川崎スカウト交流では、ボルチモアのスカウトが川崎に来る際に、必ず合同で富士登山を行います。ボルチモア隊は自隊を3776隊（富士山の高さ）としてアメリカ連盟に登録しているように、富士山に登ることが派遣の大きな目的となっています。

コロナによって物理的な交流が途絶えて3年経ちます。「去る者日々に疎し」と言いますが、交流の熱を持続するのは簡単なことではありません。川崎のボーイスカウトおよびガールスカウトのスカウトとリーダー、保護者を募り、一泊二日の富士登山を企画しました。7月25日に8名のスカウト、10名の大人、1名の医師で登山隊を編成し、5合目より出発しました。無事に予定通り山小屋に到着、仮眠の後、翌朝山頂でのご来光を拝むた

め夜半に出発、スカウト全員が登頂しました。山頂ではボルチモア隊とZoomにて交信しました。

次年度こそはボルチモア隊と一緒に再び登山できることを願ってやみません。



ガールスカウトの活動

指導者育成事業

フォレストアドベンチャー
2022年11月20日(日)

ガールスカウト川崎市連絡会

【32団】小1：時山 英里佳
フォレストアドベンチャーのターザンロープがおもしろかったですが、ターザンロープのさいごの方がこわかったです。
こんどまた行きたいです。



【40団】小3：森下 璃子
さいしょはちょっと高くてこわかったけど、いっぱいチャレンジしていると、こわくなくなって早く前に行けるようになったので楽しかったです。



【48団】小3：國井 円香
アスレチックのこわい所もあったけど、やっぱりジップラインなどの楽しい所もあって行ってよかったです。目的では、他の団の子とよく話せたと思います。
それにたくさん動いて体力とかもついたと思います。ジップラインから見るながめはとても楽しかったです。

ジュニアのつどい

高尾山ハイキング
2022年12月11日(日)



【17団】小4：岡 瑠南
高尾山に行く前は、山登りは辛いと思っていましたが、最終的にはとても楽しかったです。



私は小学4年生で最年少でしたが、パトロールリーダーになり、他の団の人たちと積極的に交流できました。



登りは皆疲れましたが、話しながら笑顔で進めました。帰る途中に鯛焼きではなく、天狗焼きを食べました。美味しかったです。
解散後は17団の人と会い、楽しく帰りました。
また、他の山や別の場所に川崎市の皆と行きたいです。

シニア・レンジャーのつどい

青少年の家に於いて
2022年11月26日(土)～27日(日)

【40団】中1：小森 仁奈
今回のシニア・レンジャーの集いには他団との交流を深めるためにお話しながら毛糸で手編みをしたり、髪ゴムを毛糸で飾り付けたりしてクラフトを楽しんで、2日目では班を分けて班員で協力してカレーを作ったりしました。

クラフトの手編みでは上手くできて楽しくて、編み物にも興味を持つことができました。

時間を守って行動することはできたけれど、余計なスマホを使ってしまったから、今後の活動では、先に自分で考えたり、周りを見てから行動するようにしたいです。



発行 川崎市青少年育成連盟
事務局 〒213-0001 高津区溝口1-6-10
生活文化会館(てくのかわさき)3階
TEL 044-811-2125 FAX 044-811-2126

青少年団体への加入申し込み、お問い合わせは、
川崎市青少年育成連盟事務局へ

印刷 有限会社 アキプリント社